# 呼吸器内科

部長　石田　正之

**診療体制**

これまでの同様中岡大士先生、白神実先生と私の常勤 3 名に加えて、4 月から専攻医として、馬場咲歩先生、藤原絵理先生を迎え、5 名体制で診療を行っている。

**診療の実際**

当科の診療方針はこれまでと変わることなく、偏りなく呼吸器領域全般（気管支喘息や各種肺炎などの急性期疾患、COPD や間質性肺疾患などの慢性疾患の診療、肺癌など腫瘍性疾患）の診療に取り組んでいる。昨年より世界的規模の流行が続いている新型コロナウイルス感染症による影響は本年も少なくなく、流行の波に診療が左右される状況は継続しているものの、一昨年、昨年と比較すると診療への影響は小さくなってきていると感じている。本年 1 年間の新規患者数（入院・外来併せて）は肺炎 326 例を筆頭に、肺癌 125 例、気胸 80 例と続いる（表 1）。特にここ数年は新規の肺癌患者の増加が顕著である（2019 年 57 例 2020 年 78 例 2021 年 104 例）。

呼吸器科内の診療にとどまらず、これまで同様、呼吸管理委員会、感染対策委員会、がん化学療法委員会などの委員会活動を通して科の枠を超えて病院単位での診療の質の向上に努めている。人工呼吸管理については、診療科を問わず、ほぼすべての呼吸管理患者さんへ、適切な陽圧換気および早期離脱を提供するために、呼吸管理チーム（RCT）による呼吸器ラウンドを継続している。詳細は呼吸管理委員会の年報を参考いただきたい。

当科が特に力を入れている診療の一つである内視鏡検査について、本年は 192 件の気管支鏡検査、2 件の局所麻酔下胸腔鏡検査を施行した。検査内容の詳細は以下のとおりで（表 2）難治性気胸に対する EWS を用いた気管支充填術、気管支内ステント留置術、重症喘息症例に対する気管支サーモプラスティ治療などの気管支インターベンションも積極的に行っている。さらに年末の 12 月に高知県では当院でのみ導入されている、凍結生検（クライオ生検）も開始した。

表 1 主な疾患の新規患者数

| 疾患名 | 例数 |
|---|---|
| 肺炎（間質性肺炎など非病原体の原因による肺炎を除く） | 326 |
| 肺癌 | 125 |
| 慢性閉塞性肺疾患 | 44 |
| 気管支喘息 | 39 |
| 膿　胸 | 30 |
| 気　胸 | 80 |
| 結　核 | 11 |
| ダニ・スギアレルギーに対する舌下免疫療法 | 6 |

表 2 内視鏡検査の内訳

| | |
|---|---|
| 全気管支内視鏡 | 192 |
| EBUS-GS-TBB（ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法併用肺生検） | 117 |
| EBUS-TBNA（気管支腔内聴音断層法併用下気管支鏡下針生検） | 18 |
| 気管支肺胞洗浄 | 8 |
| 気管支鏡下肺生検 | 7 |
| 経気管支凍結生検（クライオ生検） | 1 |
| 異物除去 | 8 |
| ステント留置術 | 1 |
| EWS での気管支充填術 | 10 |
| | |
| 局所麻酔下胸腔鏡検査 | 2 |

**教育・研究**

引き続き、初期・後期研修医の教育ばかりでなく、学生の教育にも力を入れ、印象残った症例であれば、積極的に学会や研究会での報告を行っている。昨年は呼吸器学会総会、内科学会総会、呼吸器学会中四国地方会でそれぞれ専攻医が優秀演題賞を受賞した。

引き続き長崎大学との肺炎の共同研究を行っており、これまで APSG-J、JPAVE J-PAVE2 study に続き全国規模の肺炎疫学研究 APSG-J-2 を行っています。また九州を中心とした肺癌の研究グループ（LOGiK）に参加し、肺癌診療の質の向上を図っております。今年からは中国・四国呼吸器疾患関連事業包括支援機構（CS-Lung）にも参加し、臨床試験にも参加をしています。今後も臨床診療を中心に、教育、学術的な発信を継続していきたいと考えている。

**課題**

当院に限らず、全国的に呼吸器内科は絶対的な不足状態にあります。呼吸器内科の楽しや魅力を伝え、発信を続け、一人でも多くの次世代を担う呼吸器内科医の育成を行う。また我々の診療をサポート、もしくはともに歩んでいくメディカルスタッフの育成も急務と考えている。

**学術発表・講演会等**

**学会発表**

| 演題 | 発表者<br>共同研究者 | 学会名 | 開催 |
|---|---|---|---|
| *Streptococcus gallolyticus subsp. pasteurinus* による感染性心内膜炎・脳塞栓症を契機に発見された大腸癌の一例<br>（内科学会総会　医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2022 優秀演題賞） | 三枝寛理<br>馬場咲歩　中岡大士　白神実<br>石田正之 | 第 119 回内科学会総会呼吸器学会総会 | 4 月 15 日～17 日<br>京都 |
| 急性膿胸における、歯性疾患（重症歯周炎）との関連についての検討<br>（呼吸器学会総会　呼吸器ことはじめ優秀演題賞） | 馬場咲歩<br>三枝寛理　中岡大士　白神実<br>石田正之 | 第 62 回呼吸器学会総会 | 4 月 22 日～24 日<br>京都 |
| 未診断 COPD を発見するための、術前肺機能検査の有用性の検討 | 三枝寛理<br>馬場咲歩　中岡大士　白神実<br>石田正之 | 第 62 回呼吸器学会総会 | 4 月 22 日～24 日<br>京都 |
| 喀痰塗抹で認めたシュウ酸カルシウム沈着（オキサローシス）が診断の契機となった、*Aspergillus niger* の一例<br>（後期研修医セッション優秀演題賞） | 藤原絵理<br>馬場咲歩　三枝寛理　白神実<br>中岡大士　石田正之 | 第 66 回呼吸器学会中四国地方会 | 7 月 9 日～10 日<br>山口 |
| 重症喘息に対して生物学的製剤の投与を行い、ステロイド中止が図れたのちに、顕在化した好酸球性多発血 | 石田正之<br>藤原絵理　馬場咲歩　三枝寛理　白神実　中岡大士 | 第 66 回呼吸器学会中四国地方会 | 7 月 9 日～10 日<br>山口 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 管炎性肉芽腫症（EGPA）の 2 例 | | | |
| 局所麻酔下胸腔鏡にて診断した、胸壁原発 MALT リンパ腫の一例 | 城可方<br>馬場咲歩　藤原絵理　三枝寛理　白神実　中嶋絢子　円山英明　中岡大士 | 高知県医師会医学会 | 8 月 20 日<br>高知 |
| 口腔内衛生環境が発症に寄与したと考えられる *Campylobacter rectus*（*C.rectus*）による膿胸の 2 例 | 竹田有佑<br>馬場咲歩　藤原絵理　三枝寛理　中岡大士　石田正之 | 第 66 回呼吸器学会中四国地方会 | 12 月 16 日～17 日<br>岡山 |
| V-V ECMO 管理を行った、健常成人に発症した、市中緑膿菌肺炎の一例 | 藤原絵理<br>馬場咲歩　三枝寛理　白神実　中岡大士　石田正之 | 第 66 回呼吸器学会中四国地方会 | 12 月 16 日～17 日<br>岡山 |

## 講演

| 演題 | 発表者<br>共同研究者 | 講演会名など | 開催 |
|---|---|---|---|
| 気管支喘息治療の変遷と重症喘息の治療戦略-経口ステロイド薬からの脱却を目指して- | 石田正之 | 重症気管支喘息セミナー in Kochi | 6 月 16 日<br>高知 |
| 当院における胸部 X 線写真の読影補助を目的とした AI システムの使用経験 | 中岡大士 | 第 24 回医療マネジメント学会総会 | 7 月 8 日～9 日<br>兵庫 |
| 気管支喘息の治療戦略～トリプル製剤の使いどころ～ | 石田正之 | テリルジーWEB 講演会 in 高知 | 9 月 13 日<br>高知 |
| Type2 炎症が優位な重症気管支喘息の治療戦略 | 石田正之 | アレルギー疾患 Web セミナー in 高知 | 11 月 14 日<br>高知 |

## 論文発表・著書

| タイトル | 執筆者<br>共同執筆者 | 掲載誌<br>出版社 | 巻・号<br>ページ |
|---|---|---|---|
| 乳癌術後に肺野多発結節陰影および縦隔リンパ節腫大を認めたサルコイドーシスの 1 例 | 藤原絵理　上桝潔　安田有斗　岩嶋大介　渡邉諭美 尾崎智博　高橋 憲一 | 気管支学 | 44 巻<br>5 号<br>pp.336-341 |
| Immunogenicity and safety of COVID-19 vaccine in lung cancer patients receiving anticancer treatment: A prospective multicenter cohort study. | Nakashima K, Ishida M, Matsui H, Yoshida C, Nagai T, Shiraga M, Nakaoka H, Otsuka Y, Nakagama Y, Kaku N, Nitahara Y, Kido Y, Hirota Y. | Human Vaccines & Immunotherapeutics | Vol.18<br>No.6<br>e2140549. |
| Long-term impact of pneumococcal conjugate vaccines for children on adult pneumococcal pneumonia in Japan: Two multicenter observational studies from 2011 to 2020. | Maeda H, Gopal Dhoubhadel B, Sando E, Suzuki M, Furumoto A, Asoh N, Yaegashi M, Aoshima M, Ishida M, Hamaguchi S, Otsuka Y, Morimoto K. | Vaccine | Vol.40<br>No.37<br>pp.5504-5512 |
| High prevalence of multiple serotypes of pneumococci in patients with pneumonia and their associated risk factors. | Dhoubhadel BG, Suzuki M, Ishifuji T, Yaegashi M, Asoh N, Ishida M, Hamaguchi S, Aoshima M, Yasunami M, Ariyoshi K, Morimoto K | Thorax | Vol.77<br>No.11<br>pp.1121-1130 |
| Effectiveness of Messenger RNA Coronavirus Disease 2019 Vaccines Against Symptomatic Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 Infections During the Delta Variant Epidemic in Japan: Vaccine Effectiveness Real-time Surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS). | Maeda H, Saito N, Igarashi A, Ishida M, Suami K, Yagiuchi A, Kimura Y, Komino M, Arai H, Morikawa T, Motohashi I, Miyazawa R, Moriyama T, Kamura H, Terada M, Kuwamitsu O, Hayakawa T, Sando E, Ohara Y, Teshigahara O, Suzuki M, Morimoto K. | Clinical Infectious Diseases | Vol.75<br>No.11<br>Pp1971-1979 |